

図書館だより

目次

図書館雑感	——島崎 恒藏	1
日本女子大学叢書の紹介		
『原子力推進の現代史—原子力黎明期から福島原発事故まで—』	——秋元 健治	2
図書館日和	——園田 絵理	3
新しい発見の場	——齊藤 智美	3
大学図書館☆活用のコツ	——中澤 恵子	4
図書館（目白）玄関ホール展示報告	——中澤 恵子	6
西生田図書館玄関ホール展示報告	——水嶋 寿恵	7
図書館（目白）4階の新しい閲覧スペースについて	——浜口 都紀	7
国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」利用開始について	——矢吹 さより	8



図書館雑感

島崎 恒藏

国立国会図書館では、以前より貴重資料の保存・活用の目的で電子データ化作業が進められてきたが、著作権上の問題がない約48万点をHP上で公開している。また昨年1月からは「図書館向けデジタル化資料送信サービス」と称して、絶版や入手困難な蔵書131万点の電子データを公立図書館に送信開始し、専用端末で閲覧が可能となっている。このサービスは、昨年8月から本学の図書館においても対応できるようになった。同サービス実現の背景には、平成24年の著作権法改正があるが、それにしてもこの利便性はネット社会の大きなプラス面として捉えることができる。

世界に目を転じると、実際に「本のない電子図書館」が存在する。具体例を一つ挙げれば、米国のフロリダ州立科学技術大学（FPU）の大学図書館がそれで、この大学は先端企業で名門校と互角に活躍できる人材の育成を目指しているという。同大学図書館の蔵書はすべて電子書籍で、利用者は専用ポータルサイトからシステムに接続し、パソコン・携帯端末などに取り込んで読むことができる。このような大学図書館は、まさにネット社会を先取りしているといえよう。しかし冷静に考えてみると、この例は確かに一つの大学図書館の方向性を示しているとは思いますが、先端技術系大学だから成り立つ話であるとの見方もできる。冒頭の例を含めてIT技術が重要ではあることは論を待たないが、少なくとも専門分野が広範に亘る本学においては、機能的ハイブリッド型図書館がこれから目指すターゲットとなるのであろう。

最近、目にした気になる調査結果がある。全国大学生生活協同組合連合会が実施した学生生活実態調査（2013年度）によれば、1日の読書時間がゼロだった学生が4割を超え、また平均読書時間も26.9分という結果が出ている。この4割超という数字も、また30分に満たない平均時間も、大学図書館のみならず大学関係者にとって、かなりの危機感を意識させる数字である。このため大学図書館の中には、あの手、この手で様々な工夫を凝らしている例が伝聞されてくる。

様々な図書館事情の中で、図書館機能が遺憾無く発揮されるためには、図書館の近代的・機能的なインフラ整備がまず重要ではあるものの、利用者・関係者の意識改革もまた極めて重要である。特に大学図書館では学生と教員・職員がそれぞれの立場でフェーズをびったりと一致させて取り組むことが必須となる。現在、本学では120周年記念事業の一環として、大学図書館の将来構想の議論が本格化している。大学図書館の持つ重要性を再認識しつつ、利用者・関係者にとって満足度の高い図書館を追求しなければならない。

（図書館長・被服学科教授）

秋元健治著

『原子力推進の現代史 一原子力黎明期から福島原発事故まで』
(日本女子大学叢書16)

秋元 健治

本書は、戦後の日本の原子力史をひもとき、原子力に関係した政治家、官僚、経済人、科学者、文化人たちが、利権でつながり、巨額の公的資金などを配分する「原子力推進複合体」がいかに形成されてきたかを述べている。日本の原子力史は、原子力推進が国策であったために、一部の研究者を除いて批判的に論じられることが少なく、そのため基本書となるような学術書があまりみあたらない。本書は、そうした役割を果たせる書籍となりえれば幸いである。

2011年3月11日に発生した東日本大震災のなかでの福島第一原発事故は、この半世紀、日本では真摯に議論されることがなかった原発の是非をめぐる社会全体に大きな問題をなげかけることになった。

未曾有の原発事故を経験し、福島第一原発の廃炉計画や放射能に汚染された地域の将来は不明瞭で、これから長い年月のなかで解決を模索していくしかない。もう原発をやめるべきという意見の根拠は明らかだが、原発をなおも必要とったえる人びとは、「日本のエネルギーにとって原発は不可欠」、「原子力は日本の基幹産業」、あるいは「原発を止めると電力が不足し、今の豊かな生活を変えなくてはならない」と主張する。

じつは原発や核燃料サイクルなど一連の原子力にかかわる問題は、エネルギーという側面だけでは理解できない。「国のエネルギー政策」という言葉が繰り返されるが、多くの人びとが賛同するエネルギー政策とは、環境に優しく持続可能性があり、安価で社会的負荷がより小さいエネルギーの普及をめざすことだ。そのこと自体に異議をとない人は少ないだろう。たとえ大事故が起こらなくとも原子力というシステムで電気をつくるのは、廃棄物の処理などから他電源に比べ非常に大きな費用がかかる。だからこそ国は、原発の放射性廃棄物の処分が困難で数万年もかかることや、その巨額となる費用を実質的に隠蔽し、半世紀もの間、公的資金やさまざまな原発への優遇策で、原発をささえ続けてきた。なぜ日本では、安全性、経済性ともに優位性をもたない原子力を国は推進してきたのだろうか。

原子力の推進は、それにかかわる人びとや組織に多大な利益をあたえる。その多くは合法的だが、公正で平等、安全な社会を希求する立場からは到底、容認できない利益が少なくない。そうした利益供与、利権の維持を可能とする構造は、日本の社会にすでに強固に組み込まれている。この構造を私は原子力推進複合体(Nuclear Propulsive Complex)と呼ぶが、その構成員に不当な利益が分配されるのは、原子力が非常に危険だという本質からうまれている。もしも原子力に危険性がなく安全なエネルギーであるなら、原子力施設周辺の住民や自治体に利益を供与する必然性は消え、あるいは原子力の安全PRをしたり、「原子力理解」を学校教育にすり込んだりする理由もなくなる。

なお本書は、新聞などの書評欄でとりあげられた。「週刊読書人」(2014年11月21日号)で天笠啓祐氏、そして「東京新聞」(2014年12月7日付)では米田綱路氏による評論が掲載された。

(家政経済学科教授)

2014年9月発行 現代書館 308頁 *目白・西生田所蔵, 請求記号539.091-Aki



図書館日和

園田 絵理

皆さんの中に頻繁に図書館に通っている方はいらっしゃいますか。読書は好きな方でしたが、私は忙しさを理由に次第に足が遠のきがちになっていました。しかし大学生になった今では定期的に図書館を訪れるようになりました。私の学科ではほぼ毎週実験があるため、そのレポートを書くための資料を集めなければいけないという理由も勿論あるのですが、それ以上に大学の図書館の居心地の良さが大きな要因として挙げられます。

公立図書館に比べて大学の図書館は、読書に加えて勉強を目的とする人の割合が多いように感じます。食堂や空き教室でノートを開いていてもつい他のことに気を取られて集中力が途切れてしまうことが多いのですが、大学図書館では熱心に勉強に取り組んでいる人ばかりなので自然と自分も頑張ろうという気持ちになります。

加えて図書館の中は静かなため、落ち着いた時間を過ごせるように思えます。私が通っている目白キャンパスでは、図書館は敷地の真ん中に位置しています。そのため窓際の机に座っていると、キャンパス内の音と気配で時間の経過を感じられます。授業中の静寂、昼休みに大通りを行きかう楽しげな話し声、第二体育館からの賑やかな歓声、サークルの練習なのか夕方になるとどこからともなく聞こえる楽器の演奏。普段キャンパスを移動している時には気にも留めない音ばかりかもしれません。しかし壁を一枚隔てるだけで、図書館の外にいるとき以上に周りの事象を不思議と穏やかな気持ちで感じ取ることができるのです。

調べ物でも、勉強でも、興味のある分野の本探しでも。空き時間にはぜひ図書館を訪れてみてください。きっとゆったりとしたひと時を過ごすことができると思います。

(物質生物科学科 2年次学生)

「新しい発見の場」

齊藤 智美

皆さんは、興味を持っていることや、これから詳しく勉強していきたいことはありますか？既に決まっている方も、まだ迷っている方もいらっしゃることでしょう。日本女子大学の図書館は、どんな方にとっても新しい発見をする場所になると思います。

私は、勉強したいことがほぼ決まった状態で日本女子大学に入学しました。しかし、講義を受け、それに関する本を読んだことで、今まで学んだことがなかった事柄に興味を持ちました。一年間様々な視点から物事を考えてきたことで、自分は何に興味を抱いているのかをもう一度見つめ直すことが出来ました。文化学科は二年生から、三つのコースに分かれて学んでいきますが、私は入学時に考えていたところとは異なるコースを選びました。本を読むことで、自分自身と向き合う時間や学びたいことが増えたことをとても嬉しく思います。

自分の興味あるテーマに出会うきっかけとなる面白い本を見つけるためにも、図書館の利用方法を理解しておくとても便利です。私は西生田図書館でアルバイトをさせていただいているのですが、どの本がどこにあるのかをきちんと把握しておくことがいかに重要であるかということを改めて感じました。アルバイト内容は、返却された本を所定の場所に戻す「配架」と、本がラベル番号順に並んでいるかを確認する「書架整備」です。最初はただやみくもに本を探していたのですが、作業をしていると、それぞれの学科がよく利用する本がどこにあるか覚えることが出来ました。場所が分かるだけでなく、本の整理をしていると自然と書籍名が目に入るので、読みたかった本や新たに興味が湧いた本が見つかることが多々ありました。

日本女子大学の図書館は、たくさん本があり種類も豊富という魅力があります。一年生から四年生まで図書館を利用する機会は数多くあることと思います。是非図書館を利用し、新しい自分を見つけてみてください。

(文化学科 1年次学生)



大学図書館☆活用のコツ



日本女子大学図書館は目白・西生田両キャンパスにあり、本学の学生・教職員・卒業生など利用資格をお持ちの方は両館を利用することができます。授業で課題が出されると学生の皆さんで大賑わいですが、効率的に資料を探す人、迷ってしまう人、様々です。せっかくなら上手に利用して頂きたいと願い、初心者向けに活用のコツをご案内します。図書館の資料もスタッフも効果的に活用し、有意義な時間を過ごしましょう。



◇利用カードの交付を受ける

学生証、教職員証を持参の上、カウンターにお越しください。利用カードは目白・西生田共通で、登録した本人のみ有効です。図書館への入館、図書の貸出などには利用カードが必要です。

◇資料の探し方 ①直接書架へ行く

この図書館は開架式です。図書・雑誌を書架で直接手に取り見ることができます。

資料は、和書、洋書、雑誌、年鑑・白書類、参考図書、大型本など、その性質や形態によってまとめて置かれています。また、同じ主題（テーマ）が集まるよう、和書は日本十進分類法（NDC）、洋書はデューイ十進分類法（DDC）により分類され、書架に並んでいます。

なお、和装本、AV 資料（視聴覚資料）など、一部の資料についてはスタッフが出納いたします。利用をご希望の場合は、カウンターまでお申し出ください。

◇資料の探し方 ② OPAC（Online Public Access Catalog）で検索する

書名または著者名、あるいはキーワードがわかっている時は、OPAC で本学の蔵書を検索し、請求記号と配置場所を調べることができます。OPAC は日本女子大学図書館ホームページからご利用ください。インターネット環境があれば、どこからでもアクセスできます。

日本女子大学図書館 HP Web サイト
<http://www.lib.jwu.ac.jp/>
 日本女子大学図書館 HP 携帯サイト
<http://www.lib.jwu.ac.jp/mobileopac/>

◇資料の探し方 ③参考係に相談する

参考係は皆さんが必要とする文献や情報を探し出すサポートをしています。資料の探し方がわからない、必要な資料が見つからないという時はご相談ください。

◇**図書を借りる**

図書と利用カードをカウンターへお持ちください。貸出は必ず本人が手続きしてください。なお、図書の返却が遅れている間は貸出できません。図書を延滞すると、遅れた日数分だけ貸出停止になりますので、ご注意ください。

◇**My JWULIS (図書館ホームページ上のプライベートルーム) を活用する**

My JWULIS (Japan Women's University Library Information System) は図書館が提供するオンライン・サービスです。OPACの検索結果から予約(貸出中図書予約, 他キャンパス図書館所蔵図書取り寄せ)ができるほか, My JWULISのメニューを選んでログインし, 利用状況の確認, 貸出更新, 予約の変更, 検索式・検索結果の保存をインターネット上で行うことができます。

◇**図書館の施設を使う**

図書館には, 新聞や情報誌があるブラウジングコーナー, DVD・ビデオ・CDなどを楽しめるコーナー, 図書館資料を使ってグループで学習・研究するグループ研究室, メディアセンター常設PCや貸出ノートPC用情報コンセントなど, 様々な学習スペースがあります。また, 学術情報検索に加え, Office 2013やホームドライブを使用できるJASMINE端末(JASMINEアカウントでログイン)も2014年3月から登場しました!積極的に活用しましょう。

◇**図書館のイベントに参加する**

★ 2015年度に関しては, 図書館ホームページやJASMINE-Navi, 館内掲示にてお知らせします。

①**図書館開催の講習会に参加する**

図書館では, 図書館利用のエッセンスを効率的にまとめた, 資料の探し方やデータベースに関する講習会を開催しています。ふるってご参加ください。

②**「学生が読みたい本」に応募する**

図書館では, 年2回(前後期各1回)「学生が読みたい本」を募集し, 研究目的に限らず, 大学図書館にあった方が良くと思う本, 読みたい本のリクエストを受け付けています。

2014年度は前期5月8日(木)~15日(木), 後期10月7日(火)~14日(火)に募集を行い, 前期・後期合わせて目白106件, 西生田166件の応募がありました。購入された図書は背に「学生が読みたい本」のシールを貼り, 入口フロアにある専用の書架に別置されています。

なお, 研究のために必要な図書の購入に関しては, 随時, 参考係にて受け付けています。

◇**協定を利用する**

日本女子大学図書館は, 学習院大学図書館(2009年11月1日施行), お茶の水女子大学附属図書館(2011年11月1日施行), 跡見学園女子大学図書館(2013年11月1日施行)と図書館相互利用協定を締結しています。f-Campus(5大学単位互換制度)も併せ, 下記の表にてご紹介します。各図書館の規則・マナーを守って利用しましょう。

	図書館相互利用協定			f-Campus (5大学単位互換制度)
協定校	学習院大学図書館	お茶の水女子大学 附属図書館	跡見学園女子大学 図書館	学習院大学, 学習院女子大学 立教大学, 早稲田大学
対象者	本学発行の学生証・教職員証所持者			f-Campus 受講証を 所持する学生
サービス 内容	館内閲覧, 複写 図書の貸出	館内閲覧, 複写	館内閲覧, 複写	館内閲覧, 複写

*詳細は, 図書館ホームページ「協定校利用案内」(<http://www.lib.jwu.ac.jp/lib/KG.html>) 参照。

(館員・閲覧係 中澤恵子)

図書館（目白）玄関ホール展示報告

図書館（目白）玄関ホールにて、今年度で開催した展示と今後の予定についてご報告します。

◆「図書館を探検しよう！2014」（4月3日（木）～12月10日（水））

新入生をはじめとする利用者の皆さんに、図書館の様々な資料と施設をご紹介するビジュアル図書館案内「図書館を探検しよう！」の2014年度版を年間を通して展示しました（他展示期間を除く）。館内のどこに何があるかを玄関ホールで簡単に学び、有効活用していただければと思います。

なお、「図書館（目白）館内スタンプラリー2014」実施中（2014年4月4日（金）～30日（水））には共催し、展示の中にスタンプ設置場所のヒントも掲示しました。スタンプラリー参加者は223名（学生219名、通信教育課程学生2名、職員1名、リカレント生1名）にのぼり、好評を博しました。来年度も「図書館を探検しよう！2015」を開催、「図書館（目白）館内スタンプラリー2015」（2015年4月4日（土）～30日（木））と共催します。

◆貴重書特別展示

「ケルムスコット・プレス版『チョーサー作品集』
『源氏物語』

（5月17日（土）12：00～16：30、
11月27日（木）～28日（金）13：00～16：00）

2009年度泉会「貴重資料購入援助費」による購入資料『ジェフリー・チョーサー作品集』ケルムスコット・プレス、1896年」と2012年度泉会「貴重資料購入援助費」による購入資料『源氏物語』五十四冊（伝宗周・理成筆、桃山期写、外題・五井善斎筆）を春と秋の年二回、特別展示しました。

「ケルムスコット・プレス版『チョーサー作品集』」の美しさに感嘆する方、『源氏物語』の和歌の書かれた頁と他の頁の書き方を比較する方、書き入れ箇所に興味を持つ方、文字に見入る方、装丁に興味を示される方など、貴重書はいろいろな観点から閲覧されるようです。

◆「図書館でChristmas 2014！」（12月13日（土）～25日（木））



「図書館でChristmas 2014！」展示風景

クリスマスが近づくと街も華やかになり、楽しい気分になります。図書館にお立ち寄りの際にも、そのような華やぎを感じていただきたく、図書館（目白）所蔵資料で、世界各国のクリスマスの雰囲気、テーブルセッティング、料理、リース、カード、物語などをご案内しました。

また、チャールズ・ディケンズのコーナーも設置し、『A Christmas carol』、『ディケンズと『クリスマス・ブックス』』などを展示しました。中でも、『Christmas books』、『Christmas stories』は1907年刊行の資料であり、装丁も美しく、このような資料を一般書架で利用できることも知っていただきたい

と思い、紹介しました。

◇2月14日（土）からは上代タノ平和文庫の図書を紹介する展示を行います。

上代タノ平和文庫は、本学の第六代学長上代タノ先生の寄贈図書により、創設された文庫です。「女性が、国際平和についての問題意識を明確に持ち、平和への推進力となることを念願し」て選ばれた図書が、現在も、そのご遺志を継いで継続収集されています。この展示では、その一部をご紹介します。（館員・閲覧係 中澤恵子）

西生田図書館玄関ホール展示報告

西生田図書館玄関ホールにて、今年度12月までに開催した展示のうち、次の2件についてご報告します。

◆「軽井沢—108年めの高原の夏—」（6月23日～9月20日）

1906（明治39）年8月27日に開寮した三泉寮。以来、本学園の精神的支柱の一つとして特別な存在であり続け、毎夏、三泉寮を訪れる学生・生徒・児童たちは、軽井沢の夏を通して成長してゆきます。この展示では三泉寮、そして、軽井沢の歴史や文化、豊かな風土が織りなす美しい自然の一端をご案内しました。

◆「もうすぐ冬ごもり：クマのおはなし」

（12月2日～12月24日）

枯葉が落ちて冬木立が目立ちはじめる12月、そろそろクマが冬ごもりを迎えるころに、クマの生態や、アイヌに伝わるクマ祭り「イオマンテ」に関する本、そして、懐かしい宮澤賢治の名作「なめとこ山の熊」、また、世界中で愛される2匹のクマ、プーさんとパディントンにちなんだ本を展示しました。翻訳家の石井桃子さん（本学卒業生）が初めて「プー」に出会ったのは、1933（昭和8）年のクリスマス・イヴのことだったそうです。皆さんにも素敵な出会いが訪れることを祈りつつ。



「もうすぐ冬ごもり：クマのおはなし」

展示風景

（館員・西生田図書館 水嶋寿恵）

図書館（目白）4階の新しい閲覧スペースについて

このたび、図書館4階閲覧室に続くスペースを新たに閲覧席の延長として整え、利用者の皆さんに開放することになった。「図書館だより」前号の巻頭写真は、この新たなスペースの窓から泉プロムナードをのぞむ構図である。見晴らしのよい、心地よいスペースなので、4階の奥まった場所ではあるが、ぜひ今後多くの方にご活用いただきたいと思う。

図書館内では各自静粛を守って学習していただくのが原則であるが、今回新たに拡張したスペースについては可動式の机と椅子を備え、足元はカーペット敷きで、従来の図書館の閲覧席とは少し違ったイメージとなっている。グループ研究室とは異なり、特に事前予約の必要なく利用できるのも、グループで、また個人で、気軽に使ってみていただきたい。メディアセンターで借りられるノートPCをLANに接続するためのHUBも用意されている。また、設置したホワイトボードは、スマートフォンによる撮影に対応している。

WiFi環境や固定PCの導入等、今後取り組むべき課題もあり、将来的には利用条件が変わっていく可能性もあるが、まずは使ってみて、不便な点についてはご意見をお寄せいただければと考えている。

（図書館課長 浜口都紀）



国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」利用開始について 矢吹 さより

2014（平成26）年10月1日から、本学図書館（目白・西生田）において、国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、インターネット公開されておらず、絶版等の理由で入手が困難な資料を利用できるサービスを開始しました。利用対象者は、本学学生、教職員など本学図書館で貸出を含む利用資格をお持ちの方（協定利用を除く）で、図書館の利用登録をされた方です。

平成27年1月時点で、下表の計138万点が利用できます。

図書	昭和43年までに受け入れた図書 約51万点
古典籍	明治期以降の貴重書等 約2万点
雑誌	平成12年までに発行された雑誌（商業出版されていないもの）約1万タイトル（約73万点）
博士論文	平成3～12年度に送付を受けた論文（商業出版されていないもの）約12万点

「国立国会図書館デジタルコレクション」(<http://dl.ndl.go.jp/>)で検索ができます。検索ボックスにキーワード（タイトル、著者など）を入力して検索します。ご自宅のパソコンやスマートフォンからも検索可能です。「検索結果一覧」で「国立国会図書館／図書館送信限定」アイコンのある資料が利用できます。



（国立国会図書館ウェブサイトより）

利用の際は参考係へお申し込みください。図書館（目白・西生田）2階情報検索コーナーの特定端末で、図書館員によるログイン後、閲覧していただけます。著作権の範囲内で複写することができますが、実際の出力は館員が行います。デジタル画像のダウンロードや保存はできません。

なお、「国立国会図書館デジタルコレクション」では、検索ボックスの下の公開範囲にチェックがデフォルトで入っているため、「インターネット公開」しているものも同時に調べられます。またチェックを入れることにより、「国立国会図書館内限定」のものも検索することができます。

（館員・参考係）

編集後記 2010年度より、5年にわたり館長を務められた島崎先生の巻頭言も、今回が最後となる。名残惜しく、心より感謝を申し上げたい。春は別れと出会いの季節、卒業する皆さんもカウンターで簡単な手続きをしていただければ引き続き図書館をご利用いただける。新入生の方々には、一足先に図書館と幸福な出会いを果たした先輩からのメッセージを掲載した。充実した学生生活を送るための一助となることができれば幸いです。

平成26年度図書館だより編集委員：中澤恵子、鈴木学、浜口都紀